

読む



ビタミン

地域に根ざす工務店

・リフォーム店を元気にするビタミンです。

2019年3月号

今月のひと言

学ぶことは真似ること？

「学ぶは真似ぶ」という言葉を聞いたことがある方は多いのではないのでしょうか。なわとびができるようになりたければ、できる子の真似をすればいい。小さい時は単純だったこの言葉も大人になるにつれ、成功モデルの真似を単純に真似しようとしてもうまくいかないもの。それは何故か？

行動ではなくて考え方をまねる

技芸の伝承に際しては「師を見るな、師が見ているものを見よ」と。弟子が師を見て、師の技芸を解釈、模倣するだけでは、結局弟子は「いまの自分」の視点から師の技芸を見ているにすぎません。そうではなく、目に見えている技芸を通して師が目指しているもの、師の視点をとらえることが大事で、簡単に言うと、真似したいと感じた人がいる時、その表面的な行動を真似しようとするのではなく、その行動をとるその人は何を目的としてその行動をとっているのかに注目することが、真似したことを自分のものにするために重要。

松翁から

さて昔、山岡莊八の徳川家康本が経営者間で大変なブームになって松下幸之助さんも人から薦められたとき、一言「いやそれは、ぼくはあかん」。「家康でない者が家康の真似をしたら失敗する。私と家康は違うのだ。家康も私のマネをしたら失敗する」。

本田宗一郎は「得意に帆をあげて」

A→A' とか A'' ではなく、「考え方をまねて」Bという行動をやってみる。それも自分が好き、得意なものをやれば、やってみる値打ちがあるのでは…。その値打ちが、ビジネスにつながらなくてもいいじゃないですか。誰かさんと同じでなく、自分なりにちょっと楽しめれば、面白がれれば。それがあなたの「値打ち」なのでは…。

はんソク コツっぽ

新企画



骨壺、ではありません。販売促進のコツとツボ、でございます。私の販促人生約40年の中で5千枚以上、様々なツールのラフを書いてきました。それだけあれば、多少は役立つものもあると思います。ちょっとしたアイデアや見せ方等ヒントになればと、ご紹介していきますので真似できることはどんどん真似してくださいませ。

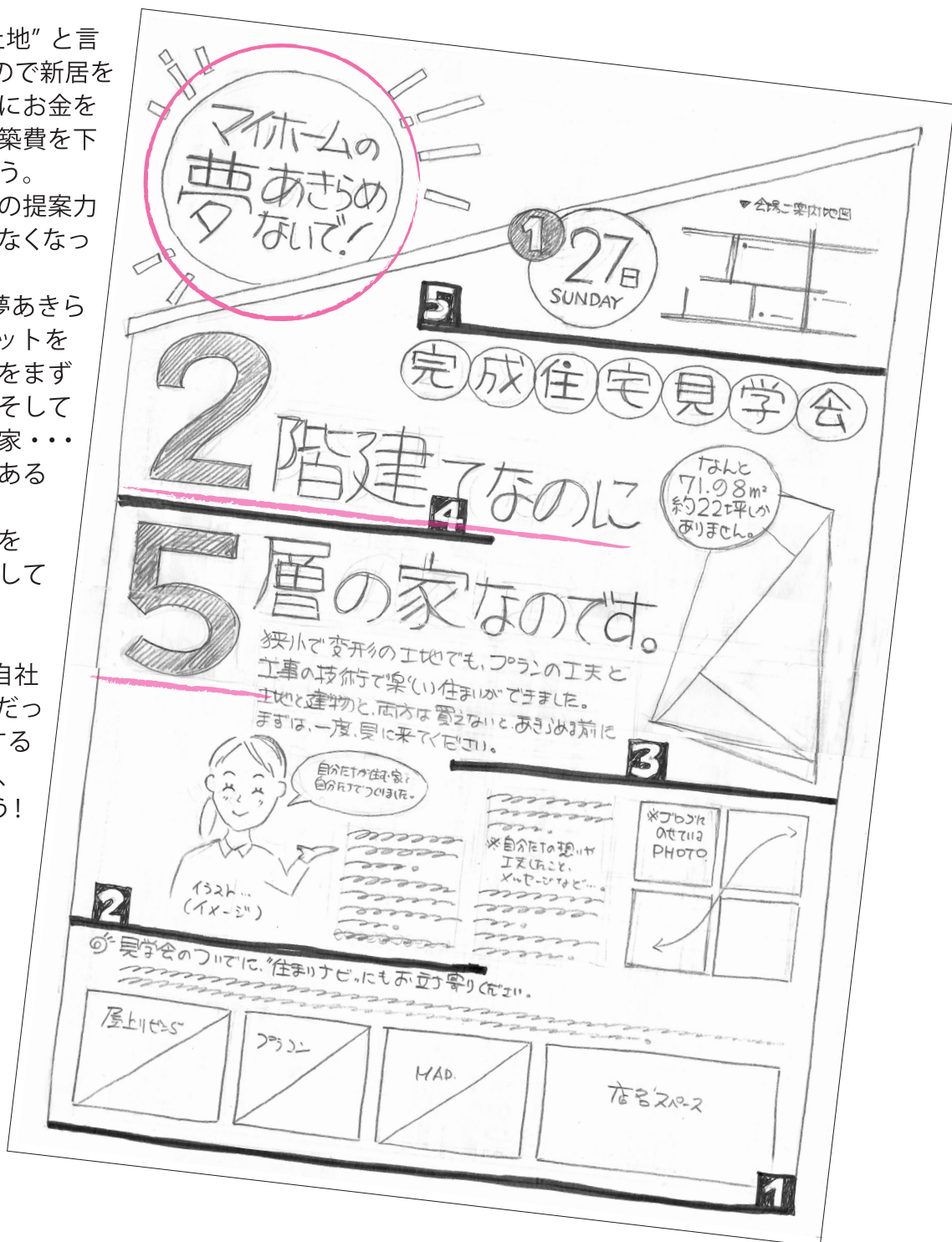
VOL.2

タイトルを一ひねり、そしてデザイン化・・・インパクトを！

これは変形狭小地で建ぺい・容積率も少ない土地の新築住宅の完成見学会。
設計士さんの工夫でスキップを多用し、子育て世代が楽しく暮らせる住まいをだ。

さて、一般的に“いい土地”と言われる土地は高い。なので新居を建てたい若夫婦は土地にお金をかけてしまいがちで建築費を下げる傾向があるでしょう。そうすると工務店さんの提案力を発揮することができなくなってしまいます。そこで“マイホームの夢あきらめないで！”とターゲットを振り向かせるキャッチをまず目立つところに置き、そして2階建てなのに5層の家・・・という、インパクトのあるタイトルにしました。そして、そのタイトルを目立つようにデザインしています。

新築もリフォームも、自社が言いたいことばかりだったり、単に価格訴求をするものが多いようですが、おもしろそう！楽しそう！とワクワクするような紙面にすることもたまには考えてみてはいかがでしょうか？



不易流行

桜の花びらに、ご一読ください。

東京ではもう、桜が散り始めている。この数年来、春になると想い出す一文がある。むしろ、その言葉に心が領されるとき、春を感じる。石牟礼道子の「花の文を」寄る辺なき魂の祈り」(「中央公論」2013年1月号)である。

そこで石牟礼は、坂本きよ子という水俣病で亡くなった女性を語った。きよ子の母親から聞いた言葉として石牟礼は、次のように書いていく。文中の「たまがって」は、驚いて、ということの意味する九州の方言だ。少し長いがそのまま引用したい。できれば、声に出して、ゆっくり読んで頂きたい。一度でなく二度読んで頂きたい。

花の供養に

た年でしたが、桜の花の散ります頃に。私がちょっと留守をとりましたら、縁側に駆け出て、縁から落ちて、地面に這うとりましたですよ。たまがって駆け寄りましたら、かなわん指で、桜の花びらば拾おうとしましたです。曲った指で地面に

プロムナード

にじりつけて、肘から血い出して、『おかちゃん、はなは』ちゅうて、花びらば指すとでもんね。花もあなた、かわいそうに、地面ににじりつけられて。／何の恨みも言わなかった嫁入り前の娘が、たった一枚の桜の花びらば拾うのが、望みでした。それであなたにお願いですが、文は、



チッソの方々に、書いて下さいませんか。いや、世間の方々に。桜の時期に、花びらば一枚、きよ子のかわりに、拾うてやっ下さいませんか。しよるか。花の供養に」

強いられた病を背負ったきよ子は、ほとんど動くことができない。そんな彼女が、母親が少し家を空けたとき、何かに誘われるように舞い落ちる花びらに手を伸ばす。それだけ、

若松 英輔

ではどうしても満足できず、もうまっすく伸びなくなった指で地面を這い、肘から血を出しながら、花びらを拾おうとする。でも、できない。縁側から落ちてしまふ。帰宅した母親は、そんな娘の姿を見て、驚き、駆け寄るとききよ子は「おかあさん、花が……」

と叫びながら、拾おうとしていた花びらを指さしたというのである。さらに母親は石牟礼に言う。どうか水俣病の原因である有機水銀を排出した企業であるチッソに文章を書いてくれないだろうか、いや、世の人々に、きよ子のような人間がいたことを告げる言葉を書いてくれないかと懇願する。石牟礼はきよ子を知らない。きよ子の両親にしか会っていない。石牟礼にとって書くとは、

(批評家)

工務店さんがいるところなら...

日本全国東奔西走どこへでも!

呑んで騒いで時折仕事。

よいどれ 早川大ニの



渡り旅日記



六十八合目



“なんとなく元気が出るぞ”の巻

今回は日記風に気軽に綴ってみます。



1月21日

地元横浜を久々に歩く。気持ちも萎える寒さの中で巨大な筒香が何となく元気をくれる。



1月22日

新宿にて。リフォーム店、アウムさんの新年会にお呼ばれ。余興のフラグランスとベリーダンスでなんとなく元気になる!



寝不足。なんとなく疲れ気味のまま福島は小名浜へ。以前ご紹介した志賀塗装さんだが、やはりこのバッジを見ると元気になる!



2月5日



第二の故郷高知。こちらも久々に、土佐ハイムさん、光テックさんへ表敬訪問。最後にひまわりホームさんへ。鰹の塩たたきも絶品で、たくさん元気をもらったぜよ!

夜はこれまた久々、会援隊は真柴・田中と一献。呑んで語るのはお互い様だ。



2月4日

大阪。以前お世話になったグランマさんの水原社長と打合せ。その懐かしさは元気をくれる!



高知出身のやなせたかしさん。高知から高松に向かう列車は南風。アンパンマンで元気に!

2月6日



そしてそのまま高松にママズさんの川村社長と打合せ。彼に会うといつも元気をもらうのだ。



2月8日はおいらの誕生日。我が娘からTシャツをもらった。おお、元気にシユワッチ!

2月8日

地元の金沢バンドフェスタに我が磯子フォーク村も参加。いい歳の村民だがみんなの元気がおいらを元気に!



2月9日